

仙台陣屋かわら版

第七十二号

(平成二十三年二月号)

HP: <http://www.town.shiraai.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraai.jp
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL/FAX 0144-851266 仙台藩白老元陣屋資料館発行

アイヌ文化フェスティバル2010

アイヌ文化を多彩な角度から紹介する「アイヌ文化フェスティバル」が、今年度も十二月二十三日、白老町コミュニティセンターで開催されました。無事にフェスティバルが進むよう、火の神に祈るカムイノミから開幕した会場では、アイヌ文化の担い手研修生と児童たちが合唱するクリスマスソングのアイヌ語版や、古式舞踊を中心とした演目などが行なわれました。

また二〇一〇年は、地域医療に貢献し白老町の名誉町民第一号に輝いた、高橋房次医師(明治一五年〜昭和三十五年)の没後五十年の節目であることから、昨年九月に房次の生涯を綴った人物伝『いのちのしずく』「タンの赤ひげ」高橋房次物語(農山漁村文化協会を刊行した川嶋康男氏が、「人間 高橋房次の魅力を語る」『いのちのしずく』を書いたわけ」と題し、取材で得たエピソードを交えた記念講演を行いました。あわせてホールでは、房次旧蔵の日用品ならびに書物のほか、写真家の故掛川源一郎氏が撮影した関連写真などを展示。また陣屋資料館で所持する房次を題

材とした町民劇「銀杏(いちご)のそよぎ」などの映像を上映しました。さらに伝統工芸品の展示や実演はもちろん、今年は新たに登別出身の知里幸恵に関するパネル展も開催されました。



〈上：川嶋氏によるサイン会
下：ホールでの実演〉

ただ 心念だけを求めて

陣屋資料館では、今回のフェスティバルにおいて前述の房次医師の展示を企画しましたが、没後五十周年記念ということもあり、目玉資料である「名誉町民章」のほか、「房次旧蔵の品を色々」とご覧いただきました。中でも房次が愛用した「タヌキの襟巻き」(「タヌキの毛皮の襟巻き」ではなく、頭と手足が付いたままの「タヌキ」の襟巻き)がひときり来場者の注目を浴びていました。

会場には、生前の房次と面

識を持つ方々も多数訪れ、往時を懐かしむ声が続々と聞かれる一方、思い出さずして体験談の記録をお申し出してくださる方もおりました。さらに房次の孫にあたられる高橋岳氏と、親類の吉川淳子氏(札幌市)がお越しになり、展示を見ながら房次にまつわるお話などもされ、川嶋氏の講演後には花束を贈呈し、会場から温かな大きな拍手が贈られていました。最後に、展示に際し、ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

眠っているお雛様はありますか？

今年も二月十一日(金)から三月三日(木)まで、資料館企画展示室において『麗しの雛人形展 Part 4』を開催いたします。五月の武者人形展とともに恒例となった企画展ですが、今年も昨年同様、町内外の方々から雛人形をお借りし展示したいと考えています。「そっぴいえば最近出していないわね」などといった、ご家庭で仕舞われたままの雛人形がございましたら、是非とも資料館にお貸しください。



〈左：名誉町民章の前にて、高橋岳氏と吉川淳子氏 右：記念展示に際し制作したタペストリー〉



なお、雛人形の運搬は責任をもって資料館職員が行ないますが、飾り付けにつきましては、お手伝いをお願いいたします。

また、開幕日の十一日には「雛人形製作体験」(参加者募集中)、十七日(日)には「お雛様会」も開催いたします。

雛祭りに因んだ催しなどを企画しておりますので、どうぞお楽しみに!!

「お雛様会」



日時：二月二十七日(日)十一時～十三時
 場所：仙台藩白老元陣屋資料館企画展示室
 内容：絵本の読み聞かせ、抹茶の振る舞い
 お雛様クイズ、甘酒・桜餅の試食など
 参加費：無料

「どさんこぶらり旅」で陣屋が登場 リポーターのプロ根性を見た!!

去る一月十三日の暮れ方、かねてよりお報せしておりましたとおり、STV「どさんこぶらり旅」において、陣屋資料館ならびに史跡白老仙台藩陣屋跡が放映されました。みなさん、ご覧い

ただけましたか?

昨年の十二月から実施している鎧の試着体験、これを是非ともというところで、札幌のテレビ局からあまやひでおきリポーターが訪ねて来てくれたのです。全装備を身につけた姿がこちら!!



いやはや、体格のいい人が鎧を着ると、やはり見栄えからして違います。また通常ですと試着して間もなく脱いでしまうのですが、何と、あまやリポーターは一時間以上にも及んだ収録中、一度も鎧を脱ぐことなくリポートし続けていました。しかも試着のため、シャツ一枚という薄着のまま、雪深き陣屋跡で武士に成りきり、走ったり模造刀を振り回したりの大立ち回り。さすがに鎧を脱いだ後は、しばらくンファでぐったりと肩を落としています。本当にお疲れ様です。

陣屋資料館では、引き続き三月末までの毎週土曜日に鎧の試着体験を行なっています。もちろん天候さえ問題なければリポーターのように外を歩いていただくことも可能です。思い出づくろい・話題づくろい、また、グループでも、是非お試しくだわい。

不定期シリーズ「陣屋再発見①」

「ミヤギノハギ」

雪が降り積もり、静寂に包まれた史跡。春から秋にかけての草木の賑わいも影を潜め、一見するとその壮大な面積と、もの寂しさばかりが目立つようにも感じられます。特に人の感性としては、花に眼を惹かれることが多く、落花した後の様子は見落としがちです。インターネットで調べても、まあ花の画像の多いこと。しかし、そんな人の感性などは関係なく、もちろん冬の間も植物は元気に活動しています。むしろ綺麗な花を咲かせるため、子孫を後世に残すために淡々と力を蓄えている季節といえるのではないのでしょうか。

今回、史跡で見つけたのは「ミヤギノハギ」の種子です。マメ科に属するだけあって、昔は飼料や食用としても重宝されてきました。あまり美味しそうに見えないのですが、どうやって食べていたのでしょうか? 花の季節は枝を隠すように紫紅色が咲き乱れ、重さにより地面に向かって枝垂れているため、眼にも鮮やかに写ります。



「仙台陣屋かわら版第七十号」平成二十三年二月号

発行日：平成二十三年一月二十一日

発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場